

水稲・大豆の生育と管理

令和5年8月号
大分県北部振興局集落営農・水田畑地化班

水稲の栽培管理 水管理と病害虫防除

◎**水管理** 地域による水利計画に基づき、水管理しましょう。畦畔や排水口からの漏水防止対策を徹底し、必要な時に最低限必要な水の量で、節水栽培を心がけましょう。

生育時期	幼穂形成期	穂ばらみ期～出穂開花期	乳熟期～糊熟期
水管理	間断灌水 3日湛水・2日落水	3～5cmの湛水（可能であれば） ※連続5日以上の上の湛水は行わない	間断灌水 3日湛水・2日落水

- ・落水は収穫の7～10日前（湿田は少し早く）を目安に行いましょう。
- ・早期落水は未熟粒、乳白米などの原因となります。

◎**いもち病** いもち病は7～8月の低温（20～25℃）多雨で発生しやすくなります。

◎**紋枯病** 紋枯病は高温多湿により助長されるため近年の温暖化により、まん延しやすい環境になっています。病斑は株元に発生し、発生面積を拡大した後上位の葉鞘へ進展します。株元に病斑の発生が見られたときは、出穂前（上位の葉鞘へ進展する前）までにモンカットフロアブル等で防除しましょう。

◎**トビイロウンカ** 8～9月に気温が高く雨が少ない年には発生が多くなる傾向にあるため、適期防除に注意してください。



← 紋枯病

↑ 葉いもち

判断の時期	要防除水準
7月下旬～8月上旬	10株あたり2頭
8月下旬	10株あたり10頭

トビイロウンカ短翅成虫・幼虫の特徴

- ・小さい（3～5mm）・丸っこい・体色は褐色
- ・水面に落ちると水平に足を広げる



← トビイロウンカ
長翅型

産卵数が多い

トビイロウンカ→
短翅型



薬剤名	適用病害虫名	使用時期	10aあたり 使用量	希釈倍率
ダブルカット スタークル粉剤DL	いもち病、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ、カメムシ類	穂揃い期 まで	3～4 kg/10a	—
ブラシントレバリダ 粉剤DL	いもち病、紋枯病、ごま葉枯病、 穂枯れ、疑似紋枯病、変色米、 ツマグロヨコバイ、ウンカ類、 イナゴ類	収穫14日前 まで	3～4 kg/10a	—
スタークル液剤10	ウンカ類、カメムシ類	収穫7日前 まで	60～150 L	1,000倍
モンカットフロアブル	紋枯病	収穫14日前 まで	—	1,000～ 1,500倍

※使用前はラベルをよく読み、使用時期、使用方法を守って散布しましょう。

大豆の栽培管理

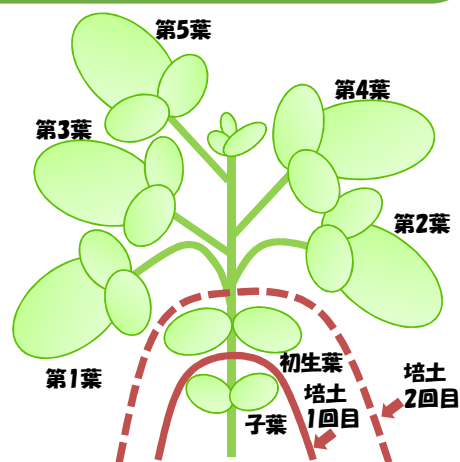
中間管理と雑草の体系防除

◎中耕培土（開花期前までに実施）

中耕培土は、湿害や雑草、倒伏を軽減するとともに大豆の生育を促進します。適切な時期に2回行いましょう。

回数	適期	培土の高さ
1回目	本葉2～3葉期	子葉が埋まる程度
2回目	本葉5～6葉期 (播種後30日頃)	初生葉が埋まる程度

※ 2回の実施が難しい場合は4葉期以降、
1回で初生葉までを目安に極力高く培土します。



◎雑草対策（生育中除草剤）

初期除草剤や中耕培土を行っても生育中の雑草を抑制できない場合は、生育期除草剤の使用を検討します。カラライナツユクサ、帰化アサガオ類、ヒロハフウリンホオズキ、ホソアオゲイトウ等の難防除雑草の発生がある場合は、除草剤を使用した防除が必要です。畦畔沿いや圃場の出入り口にも注意し、圃場内への侵入や蔓延を防止しましょう。

薬剤名	適用雑草	使用時期	10aあたり 使用量	10aあたり 散布液量	使用回数および 注意事項
ワンサイドP 乳剤	一年生イネ科 雑草 (スズメノカタ ビラを除く)	収穫60日前まで (イネ科雑草 3～5葉期)	75～100mL (葉齢により 使用量が異 なります)	通常散布 50～100L 少量散布 25～50L	1回 (雑草茎葉散布 又は全面散布)
ポルト フロアブル		収穫30日前まで (イネ科雑草3～10 葉期)	200～ 300mL		
パワー ガイザー液剤	一年生雑草	大豆の出芽直前～ 本葉3葉期 (雑草発生始期～ 2葉期)	200～ 300mL	100L	1回 (雑草茎葉散布 又は全面散布)
大豆 バサグラン 液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	大豆の本葉2葉期 ～開花前但し 収穫45日前まで (雑草生育初期～6 葉期)	100～ 150mL	100L	1回 (雑草茎葉散布 又は全面散布)
		大豆の生育期但し 収穫45日前まで (雑草生育初期～ 6葉期)	300～ 500mL		1回 (畦間雑草茎葉 散布)
アタック ショット乳剤 (※展着剤不可)	一年生 広葉雑草	大豆の本葉2葉期 ～開花前但し 収穫45日前まで (雑草生育期)	30～50mL		1回 (雑草茎葉散布 又は全面散布)

※アタックショット乳剤は薬害が発生しやすいので、使用量等に注意して使用しましょう。

農作業事故に注意！

農作業はあわてず、あせらず行い、安全確認を徹底しましょう。
ブレーキ連結の確認やシートベルト、ヘルメットの着用など、
事故の予防対策をしましょう。

